

緩和ケア病棟 3周年記念のつどいを開催!

～会場いっぱいとなる324名の参加～



おかげさまで2018年6月に神戸協同病院の緩和ケア病棟は開設から3周年を迎えることができました。これを記念し、病棟開設から現在に至るまで支えてくださった組合員や地域のみなさまに3年間のあゆみを知っていただくこと、10月8日に新長田ピフレホールで記念のつどいを開催しました。

第1部 3年間のあゆみ 取り組み報告

第1部では、緩和ケア診療部部長として3年間病棟を支え、また引っ張ってきた道上理事長から、これまでのあゆみと取り組みの報告がありました。

最初に、緩和ケア病棟の日々を紹介したムービーが流れ、実際に病棟に入院されていた患者さん・ご家族と病棟スタッフとのあたたかな関わりや、病棟での生活の様子を見ていただきました。

次に、西神戸地域で初めての緩和ケア病棟として、地域から多くの期待とニーズを寄せていただいた3年間の、統計データを基に振り返りました。

緩和ケア病棟はほとんどのスタッフが経験のないところからのスタートでしたが、研修や学習を重ね、多職種間で連携しながら病棟として成長してきたこの3年間の「あゆみ」を知っていただくことができました。

最後には、現状の課題をふまえ、地域包括ケアの一員として、また下町の中にある緩和ケア病棟としての今後の病棟の展望が語られました。



第2部 記念講演「生もこんとん 死もこんとん」

講師 徳永 進先生(野の花診療所 所長)

第2部では、鳥取から野の花診療所所長の徳永進先生をお迎えし、「生もこんとん 死もこんとん」と題しご講演いただきました。

日本のホスピス医療の先駆者として、長年緩和ケア医療に関わってこられた徳永先生。これまで培ってこられた豊富な経験の中で、実際の患者さんとの関わりから得た学びを、ユーモアいっぱい、わかりやすくお話していただきました。会場は何度も大きな笑いに包まれ、時に優しいハーモニカの音色に癒やされ、時にほろりと胸に沁みる言葉に感激し、死を前にしても「生きること」のエネルギーを伝えていただきました。

参加された多くの方にとって学び多い講演となり、講演後の会場は盛大な拍手に包まれました。



3周年記念誌

これまでのあゆみと現在の到達点を形に残そうと、3周年記念事業実行委員会が中心となって、記念誌が完成し、当日参加されたみなさまにお渡ししました。表紙には緩和ケア病棟に入院されていた患者さんが書かれたイラストを使わせていただき、病棟のイメージに合った、あたたかなデザインとなりました。

私たちの緩和ケア病棟のこれまでとこれからを知っていただける1冊となりました。



～参加者の感想から～

当日参加された組合員、職員、一般、医療関係者の方々から非常に多くの感想を寄せていただきました。ごく一部ですがご紹介させていただきます。

3年間の取り組みは素晴らしいと思います。一人ひとりがとても大切にされ、残された時間を少しでも喜びのあるものにしてもらえるお気持ちがよくわかり、自分もこのように最後を迎えられたらいいなあと思いました。

楽しいお話をお聞きし、日々のケアの内に埋もれてしまう、看護師としての大切な心を、楽しいお話を聞かせていただきながら思い出すことができました。ふとした時に、今日のお話を思い出して、なぜ看護師になると思ったのか、なぜ緩和ケアに関わろうと思ったか、自分の原点を忘れず働いていきたいと思います。

スライドを見て涙しました。徳永先生の話は、楽しく笑いながら、重要なことを学ばせていただきました。ハーモニカも良かったです。忘れられない浜辺の歌になりました。ありがとうございました。

お礼の言葉 緩和ケア診療部部長 道上 哲也

この3年間は長かったように感じています。しかしまだ緩和ケア病棟としての経験は浅く、振り返るとこれでよかったのだろうかかと反省することもたくさんありました。そんな中で、私たちの緩和ケア病棟が3周年を迎えられたのは、内外の多くの方々からの支えがあったからこそ感じております。改めてお礼を申し上げます。

今回のつどいでは、これまで病棟を支えてくださったみなさまに、3年間のあゆみと感謝の気持ちを伝えることができたのではと感じております。

記念誌をまとめるにあたっては、今後の課題もたくさん見えてきました。一つひとつの課題に向き合って、よりよい緩和ケア病棟を目指していきたいと考えています。これからも一層のご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

